

「被害者」が「犯罪者」に!?

白バイ冤罪①

最新インタビュール!!

高知白バイ事件

「無罪」を訴えながら
禁錮1年4月の実刑判決を終えて…

片岡元運転手 出所後インタビュール

聞き手 柳原三佳(ジャーナリスト)

プロフィール やなぎはら みか ●主に交通事故事件をテーマに取材・執筆活動。テレビ出演などを行う。04年からは日本の死因究明制度問題に関する記事も発表し続け、犯罪捜査の根幹に「石を投じた。主な著書に『交通事故被害者は二度泣かされる』、『死因究明』、『砕かれた真実』、『自動車保険の落とし穴』、『焼かれる前に語れ』など多数。

本誌既報の『高知白バイ事件』。「白バイとの衝突時、バスは停止していた」と主張し、終始一貫、無罪を訴え続けてきた運転手の片岡晴彦さんだったが、最高裁は上告を棄却し、

2008年8月、禁錮1年4月の実刑判決が確定。同年10月、刑務所に収監された。そして2010年2月、488日間の刑務所生活を経て出所。片岡さんは今何を思うのか…。本件

取材してきたジャーナリスト・柳原三佳がインタビュールした。



柳原 片岡さん、このたびは本当にお疲れさまでした。
片岡 ありがとうございます。
柳原 ありがとうございます。
片岡 ありがとうございます。
柳原 出所されて、一番最初に感じられたことは何でしたか?
片岡 それはもう、自由の素晴らしさですね。とにかく、自由ほど贅沢なものはないと思います。
柳原 結局、2008年10月23日から2010年2月23日まで

の1年4カ月間、仮釈放なしで、禁錮刑を満了されたわけですね。
片岡 そうです、判決どおり、1年4カ月間、刑務所の中におりました。
柳原 収監されてからすぐにお手紙もいただきましたね。どうもありがとうございます。
片岡 あの時分には精神的にもとまじやなかったので、おかしなことを書いていたかもしれま

せんが。

柳原 そんなことありませんでしたよ。そういうえば、片岡さんが収監される二日前、仁淀川町のご自宅でぎやかな送別会が開かれました。あの夜は私も一緒にさせていただき、高知県特有の「献杯」や「返杯」のしきたりを教えてもらったことを思

い出します。なんだか、ついこの間のような? とても昔のような……。片岡さんの率直な印象は?

片岡 いやあ、長かったです。本当に長かった……。
柳原 仮釈放の話は、少しくらい出たのですか。

片岡 いえ、まったく出ませんでした。仮釈放の場合には反省文などを書かないといけないわけですが、もし早く出られるからと言っても、反省文の書きようがないので……。

柳原 たしかに、そうですね。ほとんどの交通事故は不幸な偶然が重なって起きるもので、いつ、だれがその当事者になるかわかりません。でも、事故の相手がたまたま警察だったというだけで、今回のように納得できない罪を着せられて刑務所に入れられてしまうこともあるなんて……。つくづく恐ろしいこと

だと思えます。

「免許取り消し処分」に異議を唱えられぬまま

柳原 片岡さんの支援者の方から初めてメールをいただいたのは、2007年3月、事故からちょうど1年後のことでした。私が「フライデー」で書いた、愛媛白バイ事件の記事を見て、「全く同じパターンの事件が隣の高知県でも起こっています、ぜひ力を貸してほしい」という内容でした。片岡さんはちょうどその4か月前に業務上過失致死罪で正式に起訴され、刑事裁判の途中でした。

片岡 そうです。あの当時は自分でも、なんでこうなったかわからず、混乱状況でした。ただ、衝突の時、バスが止まっていたということだけははっきりしていたので、まさかこんなこ

とになるとは思ってもみませんでした。

柳原 その後、片岡さんと初めて電話でお話したとき、私は、「もし、冤罪であることを真剣に世に訴えるなら、一審判決が出る前、今しかありませんよ」とお話ししました。でも、あの頃の片岡さんは、亡くなった白バイ隊員の奥さんと幼いお子さんのことを、大変気にしておられました。自分としては何も悪質な運転をした覚えはないけれど、自分が運転していたバスにぶつかって亡くなったことは事実なのだから、その責任は負うべきではないか、だったらこのまま素直に認めてしまったほうがいいのではないかと……。

片岡 あの頃は、その思いが一番強かったです。

柳原 事故から4ヶ月後には、すでに免許取り消しの行政処分



事件を振り返る片岡さん



片岡さん語る事件について写真を見ながら検証

を受け入れておられましたよね。

片岡 当初から、警察の言うような「バスの飛び出し」という事故のかたちは認めていませんでしたし、自分が悪い事故ではないと思ってはいましたが、やはり、遺族のことを考えたら気の毒で、1円でも多く賠償金を受け取ってほしいと思っていたのは事実です。だから、行政処分も甘んじて受けよう……。

ただ、今思えば、免許取り消し処分に異議を唱えなかったことで、警察や検察には自分の過失を積極的に認めたといいふうに映ったのだと思います。

柳原 遺族を思いやる片岡さんの気持ち、裏目に出たという感じでしょうか。

片岡 今思えば、それがすべての始まりだったような気がしますが、行政処分はしかたないとしても、やはり、刑事裁判の一番

判決が出るまでもう少し動いていけば、結果はまた違っていただかもしれないと……。だから私は今でも、あのときミカさんに言われたことを、忘れることができないんです。ただ、今回の刑事裁判で、「バスが止まってるところに白バイが突っ込んできた」という事実認定がなされ、その上で、白バイ隊員が亡くなったことに対して実刑を言い渡されたのなら、私は控訴せず、そのまま刑務所へ行くつもりでした。でも、判決文に書かれた事故の事実が違う以上、それを認めるわけにはいきませんでした。どうしてあれだけのブレーキ痕跡があったのか？ 裁判官には納得できる説明がほしいのです。でない、何年経っても納得できないと思います。

柳原 そういえば、片岡さんが収監中に、足利事件の営家さんの冤罪がDNA鑑定によって明らかになり、釈放されるという出来事があったんですが、ご存知でしたか。

片岡 はい、刑務所の中で新聞は読めましたので。殺人などしていないのに、17年間も刑務所に入れられて……。すごい、というより、かわいそうという気持ちに先に湧いてきました。私なんて、1年4カ月でポロポロになったのに、17年もの長い間、どんな気持ちだっただろうと。

柳原 営家さんは、検察官に謝罪してほしいとおっしゃっていましたが、片岡さんの場合は、今、誰に謝ってもらいたいと思っておられますか。

片岡 それは、一言で言えるようなものではないですが、あのブレーキ痕が本当に後から描かれていたとするなら、それを指示した人物ですね。実際にやった人も、やりたくてやったのではないかもしれないと思うの

で、やはり、指示した人に謝罪を求めたいです。

加古川刑務所 3畳の「単独室」 での暮らし

柳原 収監の日、高知地検の入り口で支援者の方々に手を振りながら、建物の中に入っていくかれました。あの後はどうな流れで刑務所に送られたのですか。

片岡 すぐに護送車に乗せられて、車で2〜30分ほどの距離にある高知刑務所に収監されました。高知刑務所には19日間いまして、それから兵庫県の加古川刑務所のほうに移送されたんです。

柳原 加古川刑務所は、交通関係の受刑者が多いんですよね。

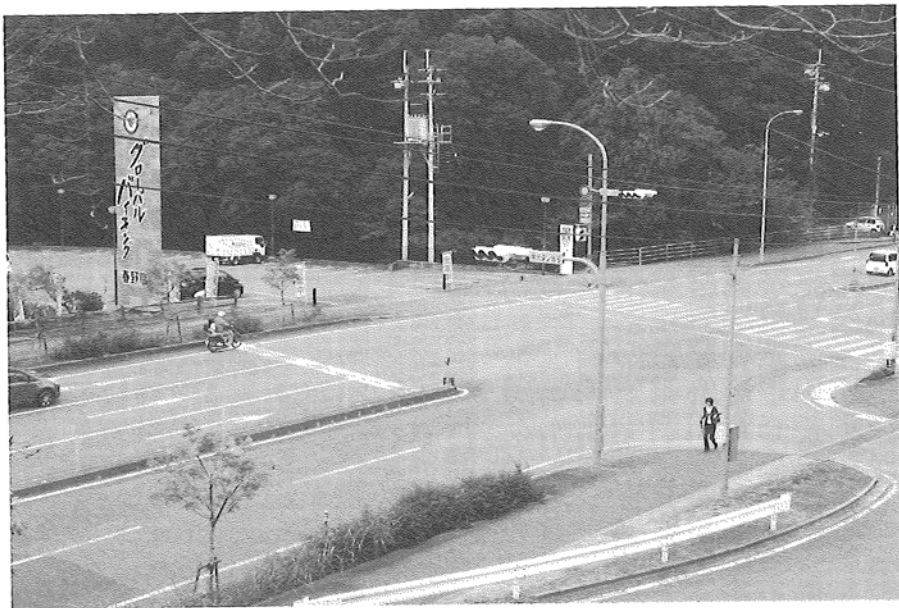
片岡 そうですね、でも、入所時の説明ビデオを見ていると、覚醒剤、大麻、アルコール

などの中毒者のビデオも流れたので、そういう関係の受刑者もかなりいるような感じはしました。とにかく、最初の一週間は、声を出さず、整列、手を挙げての行進、まわれ右、そういう基本的な訓練を繰り返しました。

柳原 私はこれまで、千葉県の中原刑務所（交通専門）、東京の府中刑務所、その他、少年刑務所など、いくつかの刑務所を見学したことがあるので、中の構造や雰囲気はだいたいイメージできるのですが、毎日、どのような暮らしでしたか。

片岡 まず、朝6時半に起床し、布団を上げて整理整頓。その後、居室衣に着替えて、洗顔や歯磨き、食事前に用便を済ませ、「点検始め」という号令がかかり、その後は正座をして、食器口から、朝食が配膳されてくるのを待ちます。

柳原 食器口というのは、居室



事件現場の現在の状況

についている小さな窓、というか、扉のことですよ。

片岡 そうです。食器が入るくらいのは大きなのですが、扉の扉自体は開けず、そこから食事や本などが受け渡されるんです。そして、それぞれの受刑者につけられた照合番号を唱えてご飯とおかずを受け取り、7時頃には朝食開始。終わったら食器を洗い、食器口に戻す、という流れです。

柳原 刑務所の中では、名前ではなく、番号で呼ばれるのですか？

片岡 はい、私の場合、加古川では934番、高知では720番と呼ばれていました。

柳原 朝食が済んだら次は何を？

片岡 作業のある人は準備をして作業場へ向かいます。ただ、私は禁錮刑だったので、房の中で何もしないで、ずっと座りつ

ばなしでした。ね。
柳原 一人部屋、つまり独居房だったのですか？

片岡 そうです、入所から釈放まで、ずっと3畳の単独室に入られていました。数か月ごとに別の部屋と交替はするんですが、最後まで単独室は変わりませんでした。

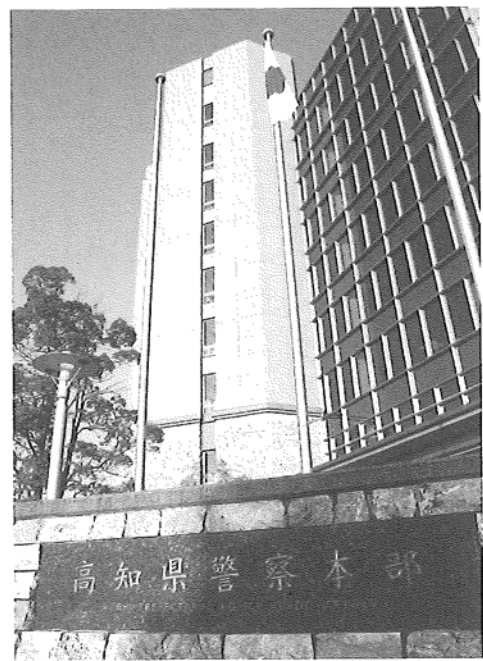
柳原 座りっぱなしと言って、本を読んだりすることくらいはできるのですよね。

片岡 はい、他の受刑者が作業をしている間は、本を読むことだけは許されました。

1日20分。 檻の中のウォーキング

柳原 何もしないで座っているだけですか……。

片岡 そうです。ただ、晴れの日は10時になったら運動の時間ということで、独居房から出さ



れ、オイチニ、オイチニの掛け声をかけながら大きく手を振って行進し、屋外へ連れて行かれました。そこには、手前が2メートル、奥が3メートルくらいの、動物園の檻があり、その中に入ったから自由に運動をせよ、というわけです。

柳原 そんな狭いスペースで、運動ですか。

片岡 歩いてみたら部屋1周20

ため寒いので身体を起こしていられず、5時には布団の中に入ります。ようするに、翌朝の起床まで約13時間半横になりっぱなし、ということ。FMラジオだけは、夕方5時半から9時まで房のスピーカーから流れてくるのですが、選局はできません。横になった状態では本を読むことも許されていませんし、とにかく夜の時間が退屈で、長かったですね。

柳原 夕食後、フリースペースに出っていくことは許されなかったのですか？

片岡 はい、私の場合、一切そういうことはできませんでした。唯一の楽しみは、週に二回、月曜と金曜の風呂でした。小さなユニットバスに、一人ひとり入るのですが、これもいろいろ制限があって、入浴時間は15分、お湯かけは14杯までと決まっていました。

柳原 洗面器に14杯ということですか？

片岡 はい、身体には6杯、頭には3杯……、合計で14杯です。冬は湯船に湯が張ってあるので、シャワーは使えません。とにかく、大急ぎで体を洗って湯船に少しでも長く浸かっていたい……、湯船に入っているときだけが極楽でした。

柳原 お風呂に入っているときも、やはり看守が見張っているのですか。

片岡 もちろんです。刑務所の中では、監視がない、という時間は全くなかったと言っているでしょうね。単独室にいるときでも、頻繁に回ってきていましたから。

柳原 24時間監視をされる生活というのは、想像しただけですとしますね。

片岡 これはもう最悪でした。どこへ行くにも、何を

にも、人間として24時間のぞかれ、監視され、独居房の窓から青空は見えるけれども、外へは出られない……。

冬はやかんの湯で暖を 夏は団扇で涼をとり

柳原 それにしても、冷暖房が当たり前の普通の暮らしから、暖房も冷房もない部屋にいきなり入れられたら、本当に辛いでしょうね。

片岡 家電物とは全く無縁の生活でした。冬はとにかく寒かった、手のひらががががんで、だんだん痺れた状態になってくるので、お茶の配給があったら、それをポットからやかんに移して、そこに手を当てて暖をとっていました。刑務所ではそれしか暖をとる術がないんです。あとは、配給された3枚の毛布と布団にくるまって寝るだけ。毛

柳原 5時前にもう夕食ですか？

片岡 そうなんです。4時45分くらいには夕食が済んでしまうので、それ以降は余暇時間となります。でも、冬は暖房がない

布をかけて寝ていると、それなりに暖かかったですけれどね。夏は夏で、暑かったです。窓は網戸になってるので、風もちよつとは入るんですが、それでも暑い。刑務所の方でうちわを配ってくれたのが、唯一、涼をとる手段でしたね。

柳原 刑務所内での買い物は？

片岡 便箋、封筒、ボールペン、写真立てなどを買いました。下着、長袖のシャツ、運動靴、その他日用品を買うことができますのですが、私の場合は、刑務所が揃えてくれるもので足りませんでした。

柳原 片岡さんは刑務所でクリスマスとお正月を2回経験されているわけですが、そういうときには何か特別なことがあるのですか？

片岡 クリスマスはなにもありませんが、正月には三日のお菓子とおせち料理の折詰、そし

てお雑煮が出ました。でも、たったひとり食べるおせち料理は、本当に寂しかったです。

「自分は「犯罪者」そう割り切ることにした」

柳原 片岡さんの場合、事故直後から終始一貫無罪を訴えておられました。それなのに、どうして自分がこんなところに入れられなければならなかったのか？ そんな悔しさに押しつぶされそうになったことはありませんでしたか。

片岡 たしかに最初のうちは、『何で自分が？』そう思って、苦しんでいました。でも、この先、1年4カ月の間、そればかり思い続けたら自分自身が辛いので、考え方を変えたんです。どうせここで暮らすなら、『自分は犯罪者だ』そう割り切つて、気持ちを入れ替えて、亡く

なった白バイ隊員の方の冥福を祈りながら過ごそうと……。それでないと、自分自身、あの生活には耐えられなかったと思います。

柳原 それにしても、最初から最後までずっと独居房で、自由時間も全くなかったことには驚きました。以前、交通事故の受刑者だけを収容している市原刑務所を見学したのですが、ここはごく一部を除いて、窓の格子も扉の施錠もありませんし、刑務所自体に高い壁がなく、ただ金網のフェンスで囲われているだけ、いわゆる「開放的処遇」が行われていました。作業を終了した平日の夕方や作業がない土曜、休日は自由時間があって、テレビ、ラジオ視聴、談話、学習や手紙を書いたりするほかに、各種クラブ活動、スポーツ行事などに参加して有意義な時間を過ごすよう指導している

か。夜間学習の希望者には夜10時まで図書室の利用も許可しているそうです。片岡さんも、交通事犯の受刑者なのに、あまりにも処遇が違いすぎませんか？

片岡 ほかの刑務所のこととは分りませんが、加古川に送られる前の高知刑務所では、20人くらいがひとグループになった団体行動で、食事も一緒、風呂も一緒、部屋は独居房でしたが、自由時間もあって受刑者同士で話をすることもできたんです。ところが、11月1日に加古川へ移送され、その直後にテレビで高知白バイ事件を取り上げたドキュメンタリー番組が12月1日に放映されるという予告編が流れたらしいんです。それがきっかけで、私への対応が急に変わったように思います。

柳原 刑務所内での対応が？

片岡 はい。実は、禁錮刑でも希望すれば刑務所内での仕事

させてもらえるということだったので、私も最初のうちは作業訓練を受けていたんです。一人でじっとしているより、何か仕事をしたかったんです。ところが、番組の予告が流れた後、刑務所の方で協議が行われたらしく、その結果、『テレビは受刑者も見ることができ、それが放映されると、片岡の顔も映り

受刑者の間でトラブルがあったらいけないと配慮した……』といったような理由で、以来、私は完全に他の受刑者との接点を絶たれてしまったんです。

柳原 受刑者同士のトラブルとは？

片岡 よくわかりませんが、とにかく他の受刑者と交わらせないように配慮したということ

した。正直言って、私自身は別に他の受刑者に顔を見られたってなんともなかったんですがね。以来、私は出所するまでずっとひとりきりで、他の人とは一切話もできない状態でした。

柳原 刑務所の中では、いろいろな行事がありますよね。

片岡 作業工場のチームが対抗する運動会もあったんですが、私の場合、出場も見学もできませんでした。ただ、外のにぎやかな歓声を独居房の中で聞いているだけ。歌手の方が慰問に来て歌うこともあったようですが、そういうものも、一切見ることはできませんでした。

柳原 どうしてそこまで隔離されないといけないのでしょうか。

片岡 自分でもよくわかりませんが、懲役で作業している人の方が、かえって待遇がいいような気がしましたね。とにかく1日に発する言葉と言えば、朝の点

検で自分の番号を言うときと、「おはようございます」「ありがとうございます」くらいで、声に出してしゃべるといことがほとんどなかったんです。言葉が忘れかけました。

柳原 よく耐えられましたね。

片岡 ただ、単独室の中に、写真の持ち込みだけは許されていたので、それを布団の中に見るのだけが唯一の楽しみでした。女房から届く手紙の中にも家族の写真が入っていて、出所するときには全部で100枚くらいになっていました。でも、横になつたらいろいろ考えてしまつてね、とにかく夜が長くて、一番辛かったです。

柳原 刑務所に入った途端、外部との連絡の手段を突然閉ざされてしまう訳ですよ。普段携帯電話ですぐに連絡を取り合える環境にいたるだけに、そんなつたらいろいろな面で不安だっ



収監当日、検察庁へ入って行く片岡さん



2008年、収監直前にバスの走行実験を行った片岡さん

たでしょうね。

片岡 この事故で私が免許を取り消されてから、新聞配達をして生計を立ててきたのですが、収監後は女房と娘が二人で頑張ってくれていました。冬の朝などはまだ暗く、道路も凍っていて心配だったのですが、無事であるかをたずねたくても、こちらの手紙が届くのは1週間から10日後。今思ったことをすぐに伝えることはできないというのが、本当に歯がゆかったですね。女房の方からは、緊急事態があった場合は刑務所に電報を打つことは可能なのですが、こちらからは電報は送れないのです。幸い、電報を使うようなことはありませんでした。

柳原 手紙の数に制限はあるのですか？

片岡 私のほうから出せる手紙は1カ月4通までと決められています。便箋の枚数もひとつの

封筒に7枚までです。

柳原 刑務所ですから当然ですが、いろいろ規制があつて大変だったのですね。でも、考えてみれば、片岡さんは刑務所に収監されるような罪を犯していないと主張されているわけで、私たちから客観的に見ても、罪を犯した証拠は見当たりません。それを考えると、本当に酷い仕打ちですね。

片岡 でも、私の担当の先生がとてもよい方で、常に身体のことを心配してくれました。そして、「頑張らないかんよ」といつも励ましの声をかけてくれた、それが唯一、有難かったです。

出所後初めて飲んだ ホットコーヒード 「生き返った」

柳原 今年、2010年2月23

日、1年4カ月ぶりに出所され、何が一番良かったですか。

片岡 とにかく、温かいものが食べたかった。刑務所を出された食事は麦が7割混ざっていましたが、美味しくは食べられませんでした。でも、おかずが冷たいのが辛かったです。帰り道、高速度路のパーキングエリアで食事をしたのですが、温かいものなら何でもよかったですね。

柳原 結局何を注文されたんですか。

片岡 娘が「お父さん、これが美味しいよ」と言つて、ハンバーガーランチを注文してくれました。食事の後に、ホットのコーヒーが出てきたとき、これで生き返った気がしました。温かいコーヒーというのは、本当に生理的に落ち着けてくれるものだと、あのとき本当にそう思いましたね。

柳原 懐かしい仁淀川町が見え

てきたときにはどんな思いが？

片岡 信じられない思いがしましたね。でも、女房や娘たちは、なぜか1年4か月前の場面に引き戻されるようで、何度も何度も「お父さん、また行くんや〜」「いつ連れて行かれるんやろ〜」と言っていました。

柳原 もう一度刑務所に連れて行かれるかもしれない、ということですか？

片岡 そうです。出所したことが現実だと思えず、収監される前の場面の中にあるような感覚になるみたいです。

柳原 ご自宅に戻られての生活はいかがですか。

片岡 戻ってきたあくる日から、新聞配達に出かけました。でも、筋肉が落ちて、体力的にもかなり弱っているんでしょね、走ったり、坂道や階段を駆け上がる息が切れて、汗がべつたり出て。それでも、仕事が

できる嬉しさの方が上ですね。

柳原 出所された翌日には、初孫さんもお生まれになったとか。

片岡 そうなんです。長男のところに子供が産まれましたね。ちょうどその連絡が入ったとき、支援者の人が50人くらい集まって出所祝いをしてくれていたんですが、おかげでみんなにそのことも報告できて、それが一番嬉しかったですね。健康な身体で家に帰ることができ、その上、家族が一人増えてこの日を迎えられて、自分ほどの幸せ者はおらんのではないかと思つています。いろいろなことがありましたが、前向きに生きていかなければいけないと。

今一番心配なのは 白バイ隊員の遺族のこと

柳原 今年の3月3日で、事故

からちょうど4年目を迎えたわけですが、今年も現場には行かれたのですか。

片岡 はい、女房と二人でお参りさせていただきました。私は、この事故で亡くなった白バイ隊員の奥さんや幼い子供たちが、本当の意味で一番の被害者だと思つています。この事故がこのような騒ぎになつていることを、いつか、物心ついた子供たちが知ったとき、彼らがどんな思いを抱えていくのか、今はそれが一番心配なんです。決して、亡くなったお父さんが悪いんじゃない、私たちが問題にしているのは、警察の捜査、警察組織の在り方だということを、わかつてほしいと思つています。とにかく、子供たちがまじめにまっすぐに育つてほしい、それだけ祈っています。

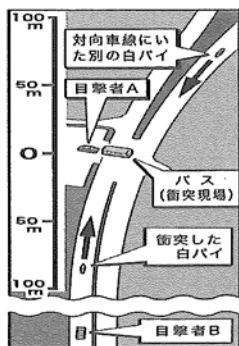
柳原 本当は、ご遺族も一緒に開っていたきたいですね。

片岡 私も、本当にそう思っています。ミカさんには記事などをとおして、ぜひこの気持ちを伝えてもらいたいと思っています。

柳原 今後は、再審請求に向けて取り組まれる予定ですか？

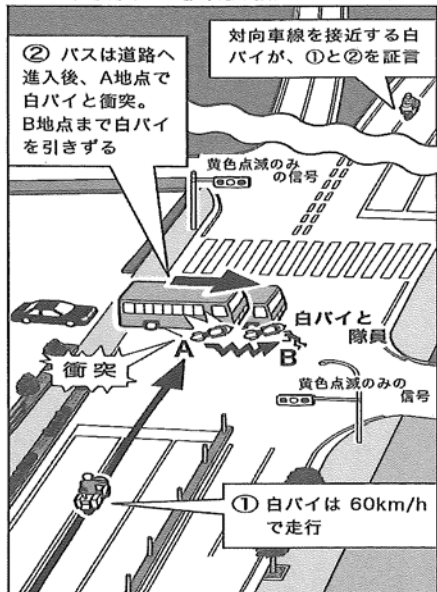
片岡 この事故では、警察が証拠を無視して一方的な捜査をし、検察官も、裁判官も、全て「片岡が犯人」という判断を下しました。今現在も警察は、現場写真のネガすら出してこないのです。私は、この事故はただの交通事故では終わらない、組織的な、国もからだ犯罪だと思っています。あるときバスに乗っていた22人の子供たちのために、そして亡くなった白バイ隊員の遺族のためにも、真実を訴えていくのが自分の義務だと思っています。

柳原 ありがとうございます。



◀事件の概観図
▼警察・検察側と片岡さんの主張には大きな違いがみられる

警察・検察側の主張



バス側の主張

